

なんでも青汁

(癌・肝・腎・アレルギー症 その他)

医学博士 遠藤仁郎 著

遠藤青汁の会 発行

—(青汁叢書第七輯)—

多発性骨髄腫

主人が、胸や背中に痛みを訴えるようになったので、精密検査をうけたところ、多発性骨髄腫とわかり、入院しているが、おそらく半年か一年だろうといわれている。青汁をやってみたいがとの相談。

○ この病気は癌性のもので、ほかの癌と同様、癌原物質と体力(健康力・生命力)とのバランスのみだれが根本の原因とかがえられる。

しかし、このご主人は、タバコは吸わず、酒も甘味も少々というところで、あまり不養生はされていないようだ。

しかし、ながく役人をしていられ、退職後もつき合ひの多い仕事をしていられたというから、あるいは、肉食にかたむいた食がすぎっていたのではなからうか。

けれども、いままさら、そういう詮策をしてもはじまらない。

今としては、病気そのものにたいしても、まだ、いずれ強力な療法(放射線であれ薬剤であれ)がおこなわれているのだから、それにたいしても、十分たえられるだけの体力(抵抗力・回復力)を維持・強化することがいかに方法はない。

そのためには、ためによくないことは極力へらし、ためによいことはできるだけやすことだ。

すなわち、タバコ、酒、菓子やジュース類はもちろん、すべての有害有毒あるいはそのおそれのある食品(既成食品・インスタント食品など)は極力さけ、青汁を中心とする安全・完全食(緑葉食・青汁、イモ・アメ・ナツパ・青汁食)に徹底することだ。

そしてナツパは、少なくとも一日一キロ(青汁にして四合)以上、多いほどよい。

また調理は簡単に、味つけはうすくすること。

もつとも、食欲しだい、このようにして、食欲がおちたり、体力がおとろえるようであ

れば、一方、なるべく嗜好にあつたいわゆる滋養食をとり、青汁だけは十分、いや十二分にのむ。

また、青汁の分量が多すぎて食事に差しかえるようなら、てきぎ乾燥粉末を利用するなどの工夫

をしなから、ともかく熱心に、根気よくつづけてみるべきだと私は思う。(五四・一二)